

# 長岡市中心市街地地区 (新潟県長岡市)

完了地区

- 中心市街地
- 観光
- 雇用創出
- 定住促進
- 官民協働

計画期間	平成18年度～平成22年度
面積	92.5ha
交付対象事業費	16,509百万円
市人口	281,515人 (H25.1.現在) (地区内人口6,925人)

## ポイント

都市機能のまちなか回帰による長岡広域市民の「ハレ」の場となる新しい長岡の顔づくりと中越大地震からの力強い復興  
○地方都市の中心市街地再生のモデル

- ①まちなかへの市役所移転と分散配置による回遊性向上
- ②屋根付き広場を中心に公会堂と市役所が一体となった「アオーレ長岡」などの整備
- ③商業だけではなく「まちなか型公共サービス」の展開

## 地区概要

本地区は、旧越後長岡藩から続く中越地域の中心地で、JR長岡駅を中心とした公共交通の結節点である。商業施設や8商店街のほか、公共施設や行政施設、金融機関の本支店や上場企業の支社などさまざまな機能が集積しており、長岡市の中心としての役割を果たしてきた地区である。

## 目標

公共交通機関が充実し、誰でも集まりやすいまちなかに、市役所等の公共施設を回帰させ、あえて分散配置することでまちに訪れる人の回遊性を高め、賑わいの再生を図る。

また、新たなまちの顔として「市民協働・交流の拠点」を整備し、合併地域も含めた広域市民との協働によるまちづくりを実践する。

## 指標

「まちなか型公共サービス」の展開を起爆剤として、民間投資の誘発を図ることで、「まちなか回帰（来る人・住む人・働く人の増加）」を促進することを目標とした。

指標	従前値	評価値
歩行者 通行量	69,974人/日 (平成15年度)	66,406人/日 (平成24年度)
中心市街地内 居住人口	6,745人 (平成15年度)	6,806人 (平成23年度)
中心市街地内 雇用者数	15,262人 (平成13年度)	14,450人 (平成22年度 推計)

## 事業内容

基幹事業  
(12,918百万円)

提案事業  
(3,591百万円)

- ・地域生活基盤施設（屋根付き広場等）
- ・高次都市施設（長岡市公会堂（仮称）、まちなか賑わい交流センター（仮称）、まちなか子育て施設）
- ・道路（地下自転車駐車場920台、市道）
- ・都市再生交通拠点整備事業（JR長岡駅前広場地区）
- ・市街地再開発事業（大手通中央東地区0.5ha）
- ・地域創造支援事業（市民活動ホール（仮称）整備事業外5事業）
- ・事業活用調査（まちなかキャンパス（仮称）事業調査事業外3事業）
- ・まちづくり活動推進事業（交通対策事業外1事業）



# 長岡市中心市街地地区（新潟県長岡市）

完了地区

中心市街地

観光

雇用創出

定住促進

官民協働

計画期間 平成18年度～平成22年度  
面積 92.5ha  
交付対象事業費 16,509百万円  
市人口 281,515人（H25.5.1現在）  
（地区内人口6,925人）

## 地区の現況と課題

車社会の進展に伴う大型商業施設や公共施設などの郊外化により、中心市街地の空洞化や活力が大きく低下してきた。

このため、人口減少、少子高齢時代を見据え、既存ストックを有効利用したコンパクトシティの実現と、中越大震災で被災した合併11町村の新市一体感の醸成と震災からの復興が喫緊の課題である。

## 提案事業の特徴

### まちなかキャンパス（仮称）事業調査事業

市民だけでなく、大学生等の若者のまちなかでの展開を検討するとともに、大学等関係機関を含むまちなかキャンパス（仮称）事業の運営方針、事業化プログラム等を検討する。

### まちなか型市役所整備事業

市民との協働による中心市街地のまちづくりを行うため、大手通中央東地区市街地再開発事業により整備する再開発ビル内に、「市民協働まちづくり実践『まちなか型市役所』」を整備する。あえて市役所機能を分散配置することで、ついで効果による回遊性やまちなかの賑わいを創出する。

### 交通対策事業

中心市街地の再整備にあわせ、中心市街地の賑わい創出に向け、将来的により有効な路線バス事業を構築するため、市の交通施策に基づく社会実験として、民間バス事業者の協力のもと、長岡駅を起点に、川西地区、宮内地区方面の路線バスの運行状況を検証する。

## まちづくりの効果、持続的取り組み

中心市街地でそれぞれ活動してきた市民団体が「市民交流ネットワークアオーレ」を作り、「アオーレ長岡」において市民目線で施設運営やイベント企画などを行い、行政はその下支えを行うという市民協働の新しい形が定着した。

また、合併地域を含め、市民、団体が持つ「人材」「資金」「情報」をつなぐ機会や仕組みをつくる組織「NPO法人市民協働ネットワーク長岡」が立ち上がり、市民活動、ボランティア活動、コミュニティ活動等を支援する体制が整った。

更に、公共施設のみまちなか回帰により車に過度に頼らないまちづくりへの転換が進んだほか、市の窓口におけるワンストップサービスや休日、夜間の開庁の実施により、市民サービスの向上を図るようになった。



▲ シティホールプラザ アオーレ長岡



▲ ペDESTリアンデッキ（大手スカイデッキ）



▲ 子育ての駅 ちびっ子広場



▲ まちなかキャンパス長岡

## 森民夫 長岡市長のコメント

～『市民協働』と『まちなか型公共サービス』の展開～

本市では、コンパクトシティの理念のもと、「市民との協働」と「まちなか型公共サービス」の展開を市政の最重要課題の一つとして取り組んでまいりました。

単にハードだけを整備するのではなく、市民と市役所が共に考え、共に取り組んだことが評価され、当地区のまちづくりが計画段階だけでなく、完成時にも大賞を頂いたことは、本市にとって大きな誇りであります。

昨年4月にオープンしましたシティホールプラザアオーレ長岡には、この1年間で予想を大きく上回る152万人の人が訪れ、既にハレの場、出会いの場として定着してきております。これは、市民の皆さんが自由なアイデアで使いこなしてくれた成果であり、こうした市民活動のエネルギーこそ、中心市街地に賑わいを創出する原動力になっていると実感しております。

今後も、「市民協働の長岡モデル」を発信し続けるとともに、中心市街地の価値を創造し、長岡の「顔」として定着させたいと考えております。

## 丸山智 長岡市中心市街地活性化協議会会長のコメント

長岡広域市民の「ハレ」の場となる新しい長岡の「顔」づくりという基本理念のもと、中心市街地にアオーレ長岡や再開発ビル、長岡駅前広場などが完成し、賑やかなまちの「顔」として市民に定着するとともに、全国からも大きく注目されております。

本協議会は、アオーレ長岡の更なる活用をはじめ、中心市街地の様々な整備事業やソフト事業を起爆剤に、行政並びに関係団体と連携し、中心市街地が更に賑わい、発展していくために、鋭意協力を行ってまいります。